

高岡市美術館

Takaoka Art Museum



富山県高岡市中川1-1-30

T E L (0766) 20 - 1177

F A X (0766) 20 - 1178

開館時間 / 9時30分～17時（入館は16時30分まで）

休館日 / 月曜日（祝日の場合はその翌日）年末年始

入館料

企画展・特別展 / 展覧会によって異なります

常設展 / 一般210円 高校生・大学生150円

小学生・中学生無料

交通アクセス

- ・ JR北陸本線「高岡駅」徒歩20分
- ・ 富山地鉄バス：富山行「中川バス停」下車徒歩2分
- ・ JR氷見線「越中中川駅」下車徒歩2分

加賀二代藩主・前田利長によって慶長14年（1609）に開町された高岡は、古くより鑄物の町として知られます。特に明治初期には、幕藩体制崩壊による加賀彫金の技の流入もあり、豪華絢爛な輸出銅器の数々を生み出すことになりました。また、北前船を通じての琉球漆器との影響関係も指摘される勇助塗など、高岡漆器の華麗さも見逃せません。

明治27年（1894）には、富山県工芸学校（現在の県立高岡工芸高等学校）が開設されます。「高岡の美校」との異名も取った同校は、日本画家・梶田半古など優れた教師を集め、漆芸家・山崎覚太郎や日本画家・郷倉千毅といった俊秀を数多く輩出しました。

当館の前身である旧高岡市美術館の開館は昭和26年（1951）の8月。戦後もっとも早く開設された公立美術館の一つです。



石井勇助（二代）「福寿文勇助塗飾棚」
明治14年頃

平成6年（1994）9月、「伝統と創造が織りなすひらかれた美術館」をめざし、内井昭蔵設計による新高岡市美術館が現在地にオープンしました。旧美術館の建物は今も古城公園に残り、高岡市立博物館として活用されています。

当館では、内外の美術動向を伝える企画展活動はもろろんのこと、高岡にゆかりの深い作品をはじめ、幅広い作品収集・保存に努めています。第1回国内勲業博覧会（明治10年）受賞作であり、最近では1878年パリ万博出品作とも比定される横山彌左衛門（二代）の彫金作品『武人文様彫金大香炉』や、温知図録に図案の確認される石井勇助の漆芸作品『福寿文勇助塗飾棚』（明治14年頃）、高岡での制作とも考えら



横山彌左衛門（二代）
「武人文様彫金大香炉」明治10年

れる梶田半古の第5回日本絵画協会・第1回日本美術院連合絵画共進会出品作『比禮婦留山』（明治31年）などは、歴史的価値の高い收藏品と言えるでしょう。

図版の2点は現在「万国博覧会の美術」展（大阪市立美術館、名古屋市博物館を巡回）に出品中です。

展覧会ご案内

開館10周年記念金属の変貌 - 近代日本の金工展

平成16年10月10日（日）まで開催中

佐倉市立美術館（会期：11月20日～12月24日）との共同企画。明治末から昭和戦前期までの金工史を約100点の作品でたどります。